

会員会社紹介

JSW 日本製鋼所

当社は、1907年の創業以来「ものづくり」と「価値づくり」を追求し、最先端技術により国内外のお客様のご要望にお応えし続けることで社会の発展に寄与して参りました。

今回は当社の鉄道車両事業への取り組みをご紹介します。

1. 沿革

1907(明治40)年、北海道炭^{たん}礦^{こう}汽船(北炭)、アームストロング社、ビッカース社の日英3社合弁で、兵器国産化を目的に北海道の室蘭に設立し、創業期は戦艦の主砲素材となる鍛鋼品や防弾鋼板などを中心に、発電用部材等も製造しておりました。

太平洋戦争後は、兵器製造により蓄積した高度な技術・ノウハウを基盤に民需へ転換し、優れた「鋼」づくりと、それらを生かす「機械」の開発、さらには新規事業分野の開拓に努め、「鋼と機械の総合メーカー」としての地位を築いて参りました。

そして現在は「素材とメカトロニクスの総合企業」として、発電、石油精製、天然ガス等のエネルギー産業向けを中心とする「素形材・エネルギー事業」と、樹脂機械製品、プラスチック成形機等を核にITや防衛など多様な製品を擁する「産業機械事業」を2つの柱に、社会の最先端のニーズに応えています。

2. 会社概要

会社名 株式会社日本製鋼所
英文社名 THE JAPAN STEEL WORKS,LTD.
本社 〒141-0031 東京都品川区大崎 1-11-1
ゲートシティ大崎ウエストタワー
創業 明治40年11月1日
設立 昭和25年12月11日
資本金 197億1662万円
従業員数 単体 2,248名(2018年3月)

3. 製作所

当社は「ものづくり」の核となる生産基地として、室蘭・広島・横浜の3製作所を有しております。

素形材・エネルギー事業の中心となる室蘭製作所は、創業以来、伝統ある素形材工場としてわが国の重化学工業の発展に寄与し、現在は最大14,000トン自由鍛造プレスなどの大型設備や最新鋭設備を保有し、エネルギー分野を中心に世界に向けて高品質な製品を供給しております。

産業機械事業を支えるのは広島及び横浜製作所であり、広島製作所は“プラスチックテクノロジーとメカトロニクスの追求”をテーマに技術革新に取り組み、世界的に評価の高い大型造粒機や押出機、フィルムシート装置、そして最先端のプラスチック射出成形機を生産しています。また火砲などの防衛機器の製造・開発では長年の実績を誇っています。



広島製作所全景

4. 鉄道車両の主な製品

当社は、昭和25年より広島製作所で鉄道



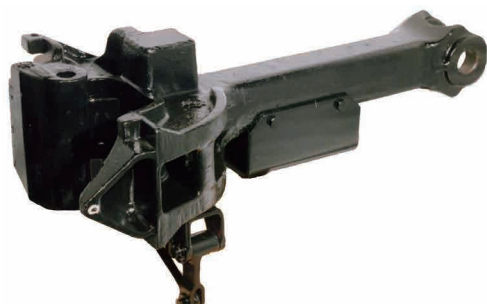
車両用各種連結器、緩衝器を製造・販売しております。

これらの製品はいずれも、当社の優れた設計、製造技術と品質管理に拠っており、日本国内のお客様各位から高い信頼と評価を得ております。

① 密着式自動連結器

当社の日鋼密着式自動連結器は、一般的な自動連結器とも連結可能で、密着式連結器同士を連結した場合は連結面にスラックが無く、乗り心地の向上、荷傷みの軽減に役立ちます。

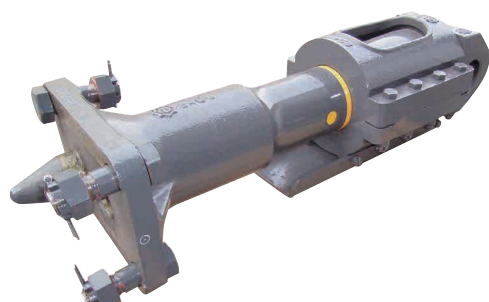
この密着式自動連結器は JR 各社を始め、各私鉄に採用されており、寝台列車などの客車や特殊車に使用される大型 (NCA 型) と、電車及びディーゼル動車に使用される小型 (NCB 型) などがあります。



日鋼密着式自動連結器

② 衝撃吸収形連結器

衝撃吸収形連結器は、編成の 1、2 両目間に搭載され、車両が踏み切り等で障害物と衝突した際に発生する衝撃を 2 両目以降に伝達しないよう、大きな衝撃に対して吸収能力がある緩衝器を胴部に内蔵する構造です。



衝撃吸収形半永久連結器

③ ダブル形緩衝器

ダブル形緩衝器は、緩衝器枠の中へ 2 組のゴム緩衝器に互いに初圧を与えて組み込み、この釣り合いにより作用上の初圧を「0」と同等にするもので、わずかな引張圧縮荷重に対しても作用し、不快な前後動を解消させる緩衝器です。

当社ではお客様のご要求に幅広くお応えできるよう、最大荷重 30 ~ 100 トン、車両への取付寸法 293 ~ 560mm のものを標準品としており、新造車両はもちろんのこと、既存車両の緩衝器の置換えにも対応できます。

この緩衝器は JR 各社の電車・客車や私鉄の電車に広く使用されております。



日鋼ダブル形緩衝器

5. おわりに

当社は、創業当時より培ってきた鋼と機械の技術を軸に、産業・社会の様々な領域で時代のトレンドをとらえた積極的な複合経営を推進して顧客・株主・従業員の要求に応え、企業価値の向上を目指しております。

わが国の鉄道車両は、今後ますます高速化と操作の簡素化、並びに保守の容易さと高い安全性を必要としており、当社はこのニーズに応えるべく、鉄道車両製品においても今後も安全と安心に貢献できる製品の提供を続け、鉄道産業の発展に寄与できるよう努めて参ります。

【産業機械販売部 産業機械グループ 八木沼 光宏】